

提案発表主題 「自立した消費者になる資質・能力を身に付けた子供の育成」

1 はじめに

令和4年4月から成年年齢が18歳に引き下げられると、未成年者取消権を行使できなくなり若年者層における消費者被害が危惧されている。学習指導要領でも小・中学校の内容の系統性が図られ、消費者教育に関する内容の充実を図っている。そこで小学校家庭科において育成する資質・能力は、物や金銭の使い方と買物について基礎的な理解と技能、日常生活の中から消費生活について問題を見だし、課題をもって考え解決する力、身近な消費生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度があげられる。

本校周辺は、大型量販店やスーパーマーケットなどの商業施設が多い。事前アンケートでは5年生全児童に買物経験があり、失敗経験がある児童も約5割であった。失敗の理由から目的を意識して購入することや情報を集めて計画的に購入することが少ないことが分かった。

そこで本題材では、児童が買物の仕組みや売買契約に関する正しい知識を身に付け、物や金銭を大切にし、これからの消費生活をよりよくできるようにしていきたい。これまでの児童の買物経験から課題を設定したり、身近な買物場面での課題について考えたりする活動を通して、将来自立した消費者になるための資質・能力を育成したいと考えた。

2 研究の視点

- (1) 問題解決的な学習過程の工夫
- (2) 学習評価の工夫
- (3) 家庭・地域との連携

3 学習指導要領上の位置付け

- (1) 物や金銭の使い方と買物 (6時間)
生活の営みに係る見方・考え方 「持続可能な社会の構築」

4 研究の実際

(1) 問題解決的な学習過程の工夫

「とらえる」段階ではアンケート結果から問題を見だし、課題を設定した。児童は買物の失敗経験からお金や物が無駄になっていることに気付いた。そこで題材全体を貫く課題を、「どうすれば失敗しない消費者になれるのだろうか。」とし、題材を通して学習意欲を高め、知識・技能を使い、思考を重ねることができるようにした。また、豆腐を選ぶ際の観点をイメージマップで示し、学習前後で比較できるようにした。

「振り返る」段階では、4種類の豆腐の値段、分量、原材料などの情報を取り出す際には、比べる視点を基にマトリックス表に整理してまとめ、情報を比較しやすいようにした。個人で選択した後、グループや全体で意見交換し、再検討することで考えを広げ深めることができた。「値段が安いのに内容量が多くて得する。」「みんなの考えを聞いて、2パックあれば別の日にも使えて便利だと思った。」「いつも買っていて家族が好きだから。」など、自分や家族が重視する観点を考えながら選ぶことができた。

「生かす」段階では、家庭で各自が買った豆腐でみそ汁作りに挑戦した。実践報告会では「車の燃料や地産地消のことを考えて阿波町で作っている豆腐にした。」「その日に使うので半額の豆腐を買った。」

「パッケージには見るところがたくさんある。」など、見方・考え方を働かせて考えることができていた報告がたくさんあった。学習前に「どの豆腐がよいのかよく分からない。」と記述し、家庭のことを振り返るようにアドバイスをした児童は学習後に「品質、分量、環境などのことを考えて買い物をしたと思った。」と自分の考えを表現することができた。最後に「伊沢っ子 買い物5か条」をまとめることで日常生活に活用できるようにした。

表 各学習過程における見方・考え方と評価

学習過程	小題材と指導事項	予想される見方・考え方を働かせている姿	評価規準		
			知技	思判表	主体的
生活の課題発見 <とらえる>	自分の消費生活を見つめよう（1時間） (1)イ	あまり考えずに買うと、物やお金ももったいない。修理したり、借りたりして大切に使用したい。		①	①
解決方法の検討と計画 <見通す>	買物の役割と消費者の役割を考えよう（1時間）(1)ア(ア)	買う前に本当に必要かどうかを考えて決めたい。	①		
課題解決に向けた実践活動 <確かめる>	どのように選んで買うとよいのだろう（2時間） (1)ア(ア)(イ)イ	お金は限りがあるので使ってよいお金がいくらまでかを考えたい。環境のことも考えてマークがついているのを選びたい。	② ③	②	②
実践活動の評価・改善 <振り返る・生かす>	目的をきめて買物をしよう（2時間） (1)ア(イ)イ	買物袋を持参し、必要でない包装は断りたい。使い方は工夫できたか、無駄なく活用できたか。	④	③ ④	③

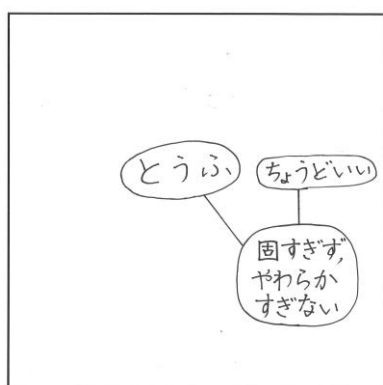


図1 豆腐を選ぶ観点 学習前と学習後 イメージマップ



図2 情報収集・整理

- ・ 買う前に本当に必要かよく考えるべし
- ・ 情報を集めて買い物に行くべし
- ・ 困ったことがあれば消費生活センター(188)に相談すべし
- ・ 環境のことを考えマイバッグを持って行くべし
- ・ 買いために必要な物を必要な分だけ買うべし(コロナ禍)

図3 伊沢っ子 買い物5か条 児童の作品

(2) 学習評価の工夫

① 知識・技能

評価規準①については、ロールプレイングをして買物や消費者の役割についてまとめる場面でワークシートの記述から評価した。評価規準④については、シミュレーションにより自分事として捉えられるように工夫し、ワークシートの記述内容から評価した。買い物5か条を消費者の役割と結び付けて記述できていることを評価した。

② 思考・判断・表現

1時間目の評価規準①については、自分の消費生活を振り返り、課題を設定しているかをワークシートの記述から評価した。評価規準④については、「値段ばかり見ていたけど、品質や産地、環境への影響や安全について考えることができた。」「小分けパックは次のときに使えて食品ロスを少なくできる。」「阿波町の豆腐を買ったら町や自然にもよさそうだ。」「小分けと普

通のサイズの豆腐をメニューによって使い分けたい。」「ごみを小さくまとめたり、リサイクルできるように分別したりすることも大切だと思った。」など、持続可能な社会の構築へ向けてワークシートの記述内容から評価した。

③ 主体的に学習に取り組む態度

評価規準①、②については、ポートフォリオの記述内容や行動観察から評価した。よい考えに線を引いたり、アドバイスが必要な場合にはコメントを書いたりして、粘り強く取り組み、自己調整できるようにした。評価規準③については、「目的に合った無駄のない買い方をして、お得な生活をしていきたい。」と新たな課題を見付け、次の実践に取り組もうとしていることを評価した。

どうすれば失敗しない消費者になれるのだろうか。

1時間目 月 日() 学習内容 買い物時のアンケート結果や阿波市消費生活センターの人の話から、よりよい買い物の仕方について考える。 ○買い物で失敗しないためにはどうしたらよいか ○阿波市消費生活センターの人の話を聞いてわかったことや考えたこと 思判表 ①	2時間目 月 日() 学習内容 買い物をするときのポイントについて学ぶ。(徳島大学 根本先生) ○学習してわかったことや考えたこと 知技 ①	3時間目 月 日() 学習内容 物やお金の大きさと計量的な買い方について考える。 ○学習してわかったことや考えたこと 知技 ② 思判表 ②	4時間目 月 日() 学習内容 身近な物の選び方や買い方について考える。 ○学習してわかったことや考えたこと 知技 ③
---	---	---	--

【買い物にチャレンジ！】
○自分で豆腐を選んで家族のためにみそ汁を作ろう。
計画メモ
○買う物 豆腐
○買う予定日 月 日()
○買う目的 家族のためにみそ汁をつくる
買前を覚える手段
高物を選ぶときのポイント
買った高物
購入理由 ○値段 円 ○場所
○品物

5時間目 月 日()
学習内容
買い物時に必要な情報を集めたり、整理したりできるようになる。
○学習してわかったことや考えたこと
思判表 ③

図4 ポートフォリオ

○みそ汁の豆腐を買うときに、お返しにも豆腐を買いますが、お返しにみそ汁を買いたくないです。

【学習後】○豆腐

○学習後と学習後、豆腐を運ぶときに、どの大きさの豆腐を買えばいいか、実際にレジで買ってみよう。

【買い物にチャレンジ！】
○レジで買ってみよう。

○学習後と学習後、豆腐を運ぶときに、どの大きさの豆腐を買えばいいか、実際にレジで買ってみよう。

○買った豆腐、買い物の品

○家族で食べてみたこと、考えたことを書きましょ。

かしい消費者になろう
5年 番

主体的 ⑤

図5 計画・実践記録表

(3) 家庭・地域との連携

導入では、阿波市消費生活センターと連携し、阿波市の実態と自分の生活から課題を設定できるようにした。相談のあった事例をもとに消費者被害について、困ったことが起きたら大人に相談することや、阿波市消費者ホットライン(188)へ電話を実際に繋ぎ、相談窓口で救済を求められる制度があることについて理解することができた。

教材は令和2年3月に配布された徳島県作成の教材「“あわっ子” みんなで始める消費者教育 未来のよりよい生活・社会のために」を活用した。また、「学校における消費者教育を支援するための講演・出前講座」事業を活用した。売買契約について身近な買物場面でのロールプレイングを行い、契約前に本当に必要かどうか考えることが大切であることを理解できた。その様子は、YouTube(徳島県チャンネル)で紹介され、家庭への啓発に繋げることができている。<https://www.youtube.com/watch?v=pYrvvLH3aLw>

学習内容を保護者に知らせ、学習前の豆腐調べや家庭実践において保護者の理解と協力を得ることにより、学習を深めることができた。学んだことを家庭と連携して実践することにより、確実に身に付けることができた。



図6 県教材

5 成果と課題

- (1) 問題解決的な学習過程を工夫することにより、持続可能な社会の構築という概念の形成とつながり、自立した消費者になるために必要な資質・能力を身に付けることができた。
- (2) 県作成教材を活用し、地域の方と連携することにより、消費生活に関する最新の情報と自分たちの現状を重ね合わせて考えることができ、より深く確かな学びにすることができた。
- (3) 評価の観点を明確にしたワークシートを作成し支援してきた。今後も改善を加え、生活の課題を適切に解決できる力を養っていきたい。